

(様式1)

研修・視察報告書

令和 / 年 / 月 22 日

みどり市議会議長
大澤 映 男 様

みどり市議会議員 宮崎 武

下記のとおり研修・視察が終了したので報告します。高草木良江、須藤日米代、丹羽ありあ

期間	令和 / 年 / 月 17日(日) ~ 令和 / 年 / 月 19日(火)
研修・視察先 及び所在地	真庭市 バイオマスツアー 及び 尾道市 天かき (地域医療)
参加者氏名	宮崎 武、高草木良江、須藤日米代、丹羽ありあ
目的	先進地の調査と研究により、みどり市政に反映させる
概要	真庭市バイオマスツアーの概要 バイオマスによる財政効果について、和歌山県に視察し、その事例を参考に、みどり市における財政効果を見出すことが目的である。 天かきの概要 令和2年度から地域医療システムの新規導入が実施されることにより、みどり市としての取り組みの差などさまざまな面から調査。
成果・所感	バイオマスツアー 森林資源を他市町村とさまざまな分野で見学してもらうことにより、真庭市の現状打開を図ることが目的とし、全国各地に宣伝する行政効果があること、またその状態を考えるとみどり市でも導入できることがわかった。 天かき 地域医療システムは、医師会主導で進められ、早期の設置ができること、再診料の削減により、みどり市においても導入すること、天かきのシステムについても深く確認し、財政的な面でも十分にメリットがあり、病気の予防が医師の紹介状なしで行えること。



※「目的」「概要」「成果・所感」は別途書式に替えることができる。

※「成果・所感」は、参加者全員が記入する。

真庭市バイオマスツアー及び尾道市天かける地域包括ケアシステム研修・視察 成果・所感

真庭市バイオマス視察は一人 8,000 円（バス代、資料代、昼食代、企画費）、ツアーに参加しないとできないので、前泊して日帰りコースに合流しました。地域資源活用の市役所本庁舎の冷暖房チップボイラによる熱利用の説明視察→真庭森林組合の集積所でのバイオマス事業（低質材のチップ化など）、→木材ふれあい会館で真庭市バイオマス産業杜市構想の概要研修（お土産品展示）→勝山町並み保存地区で昼食、後に自由散策・観光（地元酒屋や喫茶店など）→真庭市バイオマス集積基地（未利用材の受け入れ～加工）→真庭市バイオマス発電株式会社視察。視察してもらうことで宣伝や、地元への還元されるように組まれており、一石二鳥のシステムに感心した。みどり市でも、この様な観光と宣伝が出来る企画を考えていくべきと思った。

広島県尾道市は地域包括ケアシステム発祥の地とされており、先進事例として尾道方式は有名です。この方式は、かかりつけ医が家まできてもらって診てもらう文化が強かったことから医師会が主導で、病院の地域医療連携室と連携を図ることができ、顔の見える地域包括ケアシステムとなった。この尾道方式は、カルテの一元化ができて、薬の処方や生活期の介護録から最適な治療・包括ケアを導き出せると思った。みどり市にもこの方式を導入できればと思った。

高橋本良江

11月17日～19日の視察研修についての所感

須崎 米代

1、岡山県真庭市のバイオマスツアーの視察に参加して

真庭市は、2005年3月31日、9町村が合併してできた市です。人口は45,923人、面積は828km²です。古くより、真庭市は、木材を燃料とした「たたら製鉄」に始まり、西日本の木材需要を支える「製材業」など、森林の恩恵に恵まれてきました。そして現在、面積の80%が山林という、豊富な木質資源を余すことなく利用し、また、森林育成へと還元していくため、未来を見据えた長期的な「バイオマス産業都市構想」が産学官一体となってバイオマス産業都市「真庭の輪」を構築し、展開されています。

まず、驚いたのは、バイオマスツアーがバス一台の応募を募り、開催できるということです。他市の議員、大学講師、企業の研修と様々な分野からの参加者とともに視察をさせていただきました。10時から16時30分という時間をたっぷりとした濃厚な研修で、それぞれの参加者は、メモを取り、活発に質問をし、再生可能な資源の勉強をしました。

真庭地域には、森林資源はもとより、原木市場、製材所、製品市場全てが揃っています。何世代もの間、脈々と受け継がれてきた木材の本流が礎としてあるからこそ、現在のバイオマス産業の発展があるのだと感じました。

木質チップ、ペレットをエネルギー源とした、100%木質バイオマス空調熱電源システムを導入、新機能として、太陽ソーラーシリンダーを設置し、ボイラーに供給する水を加熱し多目的室等の冷暖房にも利用している。小中学校や、庁舎では冬場の暖房に、ペレットや未利用木材のチップを利用したボイラーを導入していました。

2015年からは、地域内外の木質資源を燃料化した、バイオマス発電事業を開始しました。地域をあげたバイオマスの取組と、森林（里山）の活性化による山元への地益還元など、見習うべき事ばかりでした。みどり市でも、ぜひ、実現したい、と強く感じた、とても参考になる視察研修でした。

2、〔天かける〕地域包括システムの視察研修について

「やすらぎの家」という介護施設で説明をして頂きました。

地域で家族友人と共に、笑顔で過ごしたい、高齢化社会のサポートシステムで、年をとっても、介護が必要になっても、ひと時でも長く、家族とともに住み慣れた環境で過ごしたい、一人でも多くの人の願いをかなえるために、地域の医療介護を支える人、尾道市医師会、薬剤師会、をはじめ多くの関連する機関と相談、協力しながら、一人でも多くの人の願いを支える為に、人のネットワークと、システムのネットワークを駆使して、地域医療・介護連携のより良い環境を作り上げようと支援をしています。支え合う関係機関が情報を共有し、スピード感のある対応、支援が可能になるシステムは大いに参考になりました。ICT（電子カルテやインターネットの利用）を使っのシステム構築も行っていて、強い関心を持ちました。先進地を学び、みどり市に生かせるよう努めてまいります。

1. 真庭市 「バイオマスツアー」について

バイオマス産業都市である真庭市。月田総合集積場の真庭森林組合では、人工林の状況や山の所有者との連携のあり方GIS管理などについての説明がありました。勝山木材ふれあい会館では真庭市における産業都市構想の概要説明、真庭産業団地のバイオマス集積基地

見学では、基地があることで未利用材の受け入れが可能になること、山主への還元システム、木材受け入れ価格と未利用材への付加価値をつけることで供給システム構築がなされていました。

真庭バイオマス発電株式会社では固定価格買い取り制度が確立しており、電力の自由化による地域施設への電力の還元も非常に大きな意味合いがあると感じました。

バイオマス産業都市らしい公共施設である真庭市役所本庁舎は、地域資源活用庁舎として、冷暖房チップボイラの施設概要の展示もなされていました。

観光局では地球環境貢献活動を積極的に展開し、バイオマスツアーの運行距離のCO₂換算をホームページで公開するなど、効果のある取組は本市においても導入したいと考えているところであります。

2. 尾道市 「天かけるネット」について

NPO法人天かけるは、2011年7月、JA尾道総合病院を開示施設として天かけるネットの情報システムを開始。翌年には尾道市立市民病院も加わり、現在120施設が参加するほどの規模までに発展を遂げました。

地域包括ケアシステムにおいて、医療、介護の連続した情報共有は必須であり、行政、医師会、民間のチームワークで住民を支える理想的な制度が確立されていました。

安定的に運営するための費用確保、利用に至る前の同意取得、登録作業などの手間、参加率など課題は様々ありますが、多職種が関わることで解決がなされているように思われます。

個人情報保護の観点から医療情報の共有は難しいかもしれないが、個人情報個人のために活かされなければならないと認識しました。行政の主導によるものであれば進歩は早く、安心して支援が受けられる地域包括ケアになるであろうと感じました。